

# くるみちゃん通信

不定期発行

NO.0

令和6年8月



## 認知症についての現状

人生100年と言われる時代になりましたが、100歳まで頭も身体も健康でいられる人はそれほど多くはありません。終わりを迎えるまでの最後の10年ぐらいは、思うように日常生活を送ることができないかもしれません。男性でも女性でもあまり違いはなく、長い人生の後半では、「〇〇できない」はだれにでも起こりうることなのかもしれません。



ずっと通っていたダンス教室に、認知症と診断を受けた後も通い続ける人がいます。全国に飛び回って講演会をする人もいます。施設の管理を続ける人もいます。



## 認知症と診断を受けたからといって「〇〇できない」とあきらめる必要はない時代



認知症の診断を受ける前よりは苦手なことが増えたかもしれませんが、逆に得意なことが増え、新たな自分を発見する人もいます。

いずれは誰かのサポートが必要になるかもしれませんが、そのサポートの度合いもさまざま、個人差があります。認知症の人は、必ずしもすべてにおいて介助が必要というわけではありませんし、なにもかも「できない」わけでもないのです。

「認知症＝できない」という固定観念は、  
社会に根強く残っています。



認知症の症状があるか  
ないかが重要な意味を  
持つときもありますが、  
一律に  
「認知症＝できない」と  
まとめてしまうと、  
かけがえのない個性を  
持った一人ひとりの人間  
として見られなくなって  
しまいます。

認知症と診断された  
ことよりも、  
自分が尊厳ある一人の  
人間として扱われない  
ことに悩み、  
落胆する人がとても  
多くいることを、  
私たち推進員は  
知っています。



私たち推進員は、そんな状況を変えたいと思っています。  
「認知症だから、〇〇できない」という今の社会の思い込みを打破して、  
認知症であろうとなかろうと互いを尊重し、  
互いに助けあいながら、  
自分らしく暮らすことのできる共生社会を実現したい！

そのためには、私たち推進員のみでは足りません。  
皆さんの力も必要です。このSNSを通じて  
**皆さんとつながり、皆さんの考えに耳を傾け、一緒に考えながら、**  
認知症の人のみならず、誰にとっても生きやすい社会の実現に  
資する情報を提供してまいります。

次回は、推進員の活動などをお伝えしていきます。

発行：品川区高齢者地域支援課認知症施策推進係 TEL:03-5742-6802 FAX:03-5742-6882

執筆協力：品川区認知症地域支援推進員 橋本 剛(社会福祉法人さくら会 月見橋在宅サービスセンター所長)